

皮膚病態学分野

論文

A 欧文

A-a

1. Koike Y, Okubo M, Kiyohara T, Fukuchi R, Sato Y, Kuwatsuka S, Takeichi T, Akiyama M, Sugiura K, Utani A: Granulocyte and monocyte apheresis can control juvenile generalized pustular psoriasis with mutation of IL36RN. *Br J Dermatol* 177(6): 1732-1736, 2017 (IF: 4.706)
2. Iwanaga A, Okubo Y, Yozaki M, Koike Y, Kuwatsuka Y, Tomimura S, Yamamoto Y, Tamura H, Ikeda S, Maemura K, Tsuiki E, Kitaoka T, Endo Y, Mishima H, Yoshiura KI, Ogi T, Tanizaki H, Wataya-Kaneda M, Hattori T, Utani A: Analysis of clinical symptoms and ABCC6 mutations in 76 Japanese patients with pseudoxanthoma elasticum. *J Dermatol* 44(6): 644-650, 2017 (IF: 2.094)
3. Koike Y, Murayama N, Kuwatsuka Y, Utani A: A case of Merkel cell carcinoma development under treatment with a Janus kinase inhibitor. *JAAD Case Rep* 3(6): 498-500, 2017 (<https://doi.org/10.1016/j.jdc.2017.06.028>)
4. Okubo Y, Masuyama R, Iwanaga A, Koike Y, Kuwatsuka Y, Ogi T, Yamamoto Y, Endo Y, Tamura H, Utani A: Calcification in dermal fibroblasts from a patient with GGCX syndrome accompanied by upregulation of osteogenic molecules. *PLoS One* 12(5): e0177375, 2017 (<https://doi.org/10.1371/journal.pone.0177375>) (IF: 2.806)

A-b

1. Ashida M, Okubo Y, Iwanaga A, Utani A: No rubbing, no elastosis perforans serpiginosa. *J Dermatol* 44(8): e202-e203, 2017 (DOI: 10.1111/1346-8138.13874) (IF: 2.094)
2. Murayama N, Tomimura S, Kuwatsuka S, Okubo Y, Ikeda S, Utani A: More than a coincidence? Cholesterol crystal embolization in the unaffected abdominal skin. *J Dermatol* 44(11): 1328-1329, 2017 (IF: 2.094)

B 邦文

B-a

1. 大久保 滯, 鉏塚 大, 浅井 幸, 岩永 聰, 横山洋子, 中村太祐, 山崎拓也, 宇谷厚志: ベムラフェニブ内服中に生じた重度放射線皮膚炎の1例. *Skin Cancer* 32(1): 33-38, 2017
2. 田崎典子, 鉏塚 大, 東 美智子, 鉏塚さやか, 鈴木貴久, 波多智子, 宇谷厚志: 再発性多発軟骨炎と骨髄異形成症候群を合併した Sweet 病. *西日本皮膚科* 79(1): 19-23, 2017
3. 鉏塚 大, 芦田美輪, 清水和宏, 鉏塚さやか, 宇谷厚志: Tumoral calcinosis に対しトレパンくり抜き法で加療した2例. *日本皮膚外科学会誌* 21(1): 58-59, 2017
4. 浅井 幸, 吉見公佑, 竹中 基, 宇谷厚志, 村長保憲, 亀井克彦, 西本勝太郎: 急性骨髄性白血病治療中に生じた *Fusarium* 感染症の1例. *皮膚科の臨床* 59(1): 105-109, 2017
5. 吉見公佑, 横山洋子, 原 肇秀: 早期の切開とドレナージが有効であった非イオン性ヨード造影剤の血管外漏出の1例. *皮膚科の臨床* 59(5): 607-610, 2017
6. 村山直也, 鉏塚 大, 宇谷厚志: 【代謝性疾患と皮膚病】 <臨床例> 免疫組織学的検討を行った浮腫性硬化症の3症例. *皮膚病診療*, 39(6): 609-612, 2017

B-b

1. 大久保佑美: 【押さえておきたい新しい指定難病】弾性線維性仮性黄色腫(疾病番号 166). *Derma.*, 257): 74-82, 2017
2. 宇谷厚志, 岩永 聰, 小池雄太, 大久保佑美, 鉏塚 大, 遠藤雄一郎, 谷崎英昭, 金田眞理, 簗持 淳, 三長孝輔, 荻朋男, 山本洋介, 池田聡司, 築城英子, 田村 寛, 前村浩二, 北岡 隆, 「弾性線維性仮性黄色腫診療ガイドライン」策定委員会: 日本皮膚科学会ガイドライン 弾性線維性仮性黄色腫診療ガイドライン(2017 年版). *日本皮膚科学会雑誌* 27(11): 2447-2454, 2017

B-d

1. 宇谷厚志, 小池雄太, 岩永 聰, 大久保佑美: 本邦弾性線維性仮性黄色腫の重症度判定ならびにガイドライン作成. 稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究, 平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)) 総括・分担研究報告書, pp.78-83, 2017
2. 宇谷厚志, 竹中 基, 大久保佑美: 長崎県油症認定患者における IL12 と IFN- γ の検討. 食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究, 平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業) 総括・分担研究報告書, pp73-76, 2017
3. 宇谷厚志, 竹中 基, 富村沙織: 油症認定患者における soluble CD26/DPP-4 の検討. 食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究, 平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業) 総括・分担研究報告書, pp77-80, 2017

4. 小池雄太: 乾癬外来で学んだ、乾癬以外のこと. 福岡県臨床皮膚科医会会報, 30: 8-11, 2017

B-e

1. 本多 舞, 樋口真帆, 富村沙織, 竹中 基: 表皮壊死を伴ったクロタミトンによる接触皮膚炎の 1 例. J Environ Dermatol Cutan Allergol 11(5): 462, 2017
2. 石嶋光明, 岩永浩二, 佐藤眞琴, 大久保佑美, 清原龍士, 宇谷厚志: 著明な皮膚斑状色素斑を呈したキャッスルマン病の一例. 矯正医学 65(3): 141-142, 2017
3. 清原龍士, 富村沙織, 小川文秀, 竹中 基, 宇谷厚志: Tocilizumab 投与中に壊死性筋膜炎を発症し上肢切断に至った 1 例. 西日本皮膚科 79(3): 321, 2017
4. 村山直也, 鉦塚 大, 岩永 聰, 神尾芳幸, 池原 進, 鉦塚さやか, 富村沙織, 宇谷厚志: 当科の悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害剤の使用状況. 西日本皮膚科 79(4): 412-413, 2017
5. 村山直也, 鉦塚 大, 岩永 聰, 神尾芳幸, 池原 進, 鉦塚さやか, 富村沙織, 宇谷厚志: 当科の悪性黒色腫に対する分子標的治療薬の使用状況. 西日本皮膚科 79(4): 413, 2017
6. 岩永 聰, 大久保佑美, 与崎マリ子, 小池雄太, 鉦塚 大, 富村沙織, 山本洋介, 池田聡司, 前村浩二, 築城英子, 北岡 隆, 田村 寛, 遠藤雄一郎, 三嶋博之, 吉浦孝一郎, 荻 朋男, 谷崎英明, 金田眞理, 服部友保, 宇谷厚志: 本邦における弾性線維性仮性黄色腫 76 人の解析. 西日本皮膚科 79(4): 413, 2017
7. 佐藤之恵, 原 肇秀, 大久保 滯, 宇谷厚志: 粘膜症状を繰り返し固定薬疹を疑った 1 例. 西日本皮膚科 79(4): 413, 2017
8. 清原龍士, 竹中 基, 鶴殿雅子, 宇谷厚志: 結節型類天疱瘡の 1 例. 西日本皮膚科 79(4): 413, 2017
9. 芦塚賢美, 小池雄太, 福地麗雅, 鉦塚さやか, 田崎典子, 宇谷厚志: 静脈血流うっ滞と動脈閉塞がみられた下腿潰瘍の一例. 西日本皮膚科 79(4): 414, 2017
10. 本多 舞, 竹中 基, 富村沙織, 一ノ瀬弥久, 西本勝太郎, 宇谷厚志: 皮膚症状からサルコイドーシスの診断に至った 2 例. 西日本皮膚科 79(4): 414, 2017
11. 原 肇秀: 2015 年の長崎大学病院皮膚科・アレルギー科の紹介. 西日本皮膚科 79(4): 415, 2017
12. 樋口真帆, 富村沙織, 宇谷厚志, 田中健之, 小川文秀: 抗結核薬併用療法で軽快した Bazin 硬結性の 1 例. 西日本皮膚科 79(4): 415, 2017
13. 芦塚賢美, 小池雄太, 森寄仁美, 清原龍士, 福地麗雅, 神尾芳幸, 宇谷厚志: 紅皮症を呈した落葉状天疱瘡の 1 例. 西日本皮膚科 79(4): 416, 2017
14. 西本勝太郎, 一ノ宮 愛, 竹中 基: 歴史資料から見た長崎におけるスポロトリコーシス第一例. 西日本皮膚科 79(4): 416, 2017
15. 樋口真帆, 竹中 基, 松永義孝, 計盛幸子, 千貫祐子, 宇谷厚志: 牛肉アレルギーの 2 例. 西日本皮膚科 79(4): 416-417, 2017
16. 竹中 基, 富村沙織, 原 肇秀, 宇谷厚志: アレルギー外来での患者動向. 西日本皮膚科 79(4): 417, 2017
17. 本多舞, 竹中 基, 富村沙織, 宇谷厚志: 萎縮性皮膚線維腫の 1 例. 西日本皮膚科 79(5): 514, 2017
18. 樋口真帆, 鉦塚 大, 宇谷厚志, 佐藤信也, 宮崎泰司, 新野大介: Diffuse large B cell lymphoma(DLBCL)の再燃時に皮膚に AL 型アミロイドーシスを発症した 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 127(2): 219, 2017
19. 鉦塚 大, 岩永聰, 村山直也, 鉦塚さやか, 本多 舞, 神尾芳幸, 宇谷厚志, 石井文人, 橋本 隆: 免疫チェックポイント阻害薬使用中に発症した水疱性類天疱瘡の 2 例. 日本皮膚科学会雑誌 127(5): 1159, 2017
20. 森寄仁美, 鉦塚さやか, 福地麗雅, 白石裕一, 福嶋かほり, 宇谷厚志: 環状紅斑を伴った Stiff person 症候群の 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 127(5): 1164, 2017
21. 大久保佑美: 専門医に必要な真皮学 日常診療で出会う遺伝性結合織疾患と治療の breakthrough. 日本皮膚科学会雑誌 127(5): 947, 2017
22. 小池雄太: 臓器の枠を超えた線維化研究の集結 全身性強皮症の臨床と自己抗体産生・線維化機構. 第 49 回日本結合組織学会学術大会プログラム・抄録集 p.71, 2017

学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
0	0	0	2	5	29

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
竹中 基・准教授	油症対策委員会委員	長崎県
竹中 基・准教授	油症研究班班長	長崎県
竹中 基・准教授	カネミ油症患者診定専門委員	福岡県
竹中 基・准教授	評議員	日本皮膚アレルギー接触皮膚炎学会
竹中 基・准教授	指定難病審査会委員	長崎県
原 肇秀・講師	世話人	日本褥瘡学会九州・沖縄地方会
富村沙織・講師	油症対策委員会委員	長崎県

競争的研究資金獲得状況（共同研究を含む）

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
竹中 基・准教授	厚生労働省	分担	厚生労働科学研究費（食品の安全確保推進研究事業（カネミ油症に関する研究）） 食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究
原 肇秀・講師	日本医療研究開発機構	代表	難治性疾患実用化研究事業 遺伝性皮膚疾患における変異同定並びにナンセンス変異読み飛ばし試薬による治療法開発
富村沙織・講師	日本医療研究開発機構	分担	難治性疾患実用化研究事業 ゲノム不安定性疾患群を中心とした希少難治性疾患の次世代マルチオミクス診断拠点構築
小池雄太・助教	日本学術振興会	代表	若手研究（B） 皮膚創傷断端表皮細胞における上皮間葉移行の機序解明
小池雄太・助教	厚生労働省	分担	難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業） 稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究
鉾塚大・助教	ノバルティスファーマ株式会社	代表	HDAC 2 阻害剤がケロイド発生病態に及ぼす効果の検討

その他

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
竹中 基・准教授	【4K/8K モニタ-その圧倒的な臨床への貢献】 確実となるモニタ活用効果 8K モニタ- & カメラでのシステムに	新医療 44(9): 84-87, 2017	2017/9/1	8K モニタ-とカメラによる遠隔医療の実証実験の結果について説明した。

	よる遠隔医療の革新 8K モニターには何が映るのか.			
竹中 基・准教授	治療の成果がはっきり見える だから満足度を大切にしたい.	九州医事新報	2017/9/20	皮膚アレルギー疾患と皮膚真菌感染症について、最近の動向を紹介し、大学病院での検査や治療について説明した。

○特筆すべき事項

I. カネミ油症の診断、治療の改善を目的とした厚生労働省の食品の安全確保推進研究事業に参加し、下記の協力を行ってきた。

①油症検診：昭和43年以来、毎年1回長崎県下各地での検診を行っている。

②研究事業：油症患者の毛髪、皮下脂肪織、皮脂中の有機塩素化合物の定量、ポルフィリン代謝異常に対する影響などを検討し、油症にみられる全身的悪影響を検討、発表している。

II. ひふの日に公開講座を開いて啓発活動を行っている。